

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

今週の注目材料=米消費者物価指数に注目

2024年5月13日

15日に4月の米消費者物価指数(CPI)が発表されます。力強い米経済状況を受けて、米FRBによる利下げ開始時期の見通しが先送りされる状況が続いていましたが、3日に発表された4月の米雇用統計が予想外に弱い結果となったことで、早期利下げの期待が再び強まっています。とはいえ次回6月のFOMCでは据え置きが確定的。7月以降どこかのタイミングで利下げが行われるか、もしくは年内見送りとなるか、そのカギを握る大きな材料の一つが米国の物価動向だけに、今回のCPIに注目が集まっています。

まずは4月10日に発表された前回3月分のCPIを確認しましょう。前年比は+3.5%と2か月連続で前月の水準を超える伸びとなりました。水準的には昨年9月以来の高水準となります。市場予想の+3.4%を上回る強い伸びとなりました。変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア指数は、前年比+3.8%と2月と同水準の伸びでした。こちらも市場予想+3.7%を上回る伸びとなっています。

前月比は+0.4%と2月と同水準、コアの前月比も+0.4%で2月と同水準。市場予想はともに+0.3%となっていました。

前回の内訳を確認すると、昨年2月から前年同月比マイナスが続いていたエネルギー価格が、ガソリン価格の上昇もあって小幅ながらプラス圏を回復しました。

鈍化が続いていた食品は2月時点で前年比+2.2%まで低下していたこともあり、2月と同じ+2.2%となりました。

コア指数の項目では、財部門が3か月連続でマイナス圏となりました。マイナス圏が続く中古自動車が前年比-2.2%と3月分も弱い結果となりました。

サービス指数は前年比+5.4%と高めの推移。昨年3月をピークに伸び鈍化が続いていた住居費が2月と同じ+5.7%で鈍化が一服しています。昨年4月からのマイナスが続く航空運賃は-7.1%と2月の-6.1%を超える下落となりました。

先月26日に発表された3月の米個人消費支出デフレーターは前年比+2.6%と2月の+2.4%、市場予想の+2.5%を超える伸び。コアは+2.8%と2月と同水準で市場予想の+2.7%を上回りました。

こうした物価の鈍化傾向一服が、市場の早期利下げ開始期待を後退させました。

こうした状況を受けて今回のCPIですが、市場予想は前年比+3.4%、コア前年比+3.6%とともに3月から伸びが鈍化する見込みとなっています。

内訳のうち、エネルギー価格は今回もしっかりとした伸びになりそうです。米エネルギー情報局(EIA)のガソリン小売価格は全米全種平均で3月の1ガロン当たり

3.542ドルから3.733ドルへ約5.4%上昇しました。

CPIは都市部だけのデータですから、そのままの数字とはなりません、CPIでもガソリンはプラス圏が期待されます。

コア部門では住居費の伸び鈍化がみられるかどうかポイント。弱めに出ている自動車については、サプライチェーンの混乱収束が進んだことで、ここに来て新車供給が回復してきており、価格鈍化傾向が続くと期待されます。

市場予想通りもしくはそれ以下の伸びとなった場合、9月までの利下げ開始期待が支えられる形となります。直近では少数派となっている7月FOMCでの利下げ期待まではつきり強まるようだドル売りが見込まれます。逆に予想を超えてきた場合は年内据え置き期待が強まり、ドル高となる可能性があります。

なお、その前日24日に発表される4月の米生産者物価指数(PPI)はCPIの前哨戦として注目されます。市場予想は前年比+2.2%と3月の+2.1%から小幅ながら伸びが強まる見込み。コアPPI前年比の予想は+2.3%とこちらは3月の+2.4%から伸びが鈍化する見込みとなっています。

山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシーズ 編集長

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。